

脳神経外科臨床研修プログラム（2年次選択）

I. 一般目標

脳神経外科疾患全般を理解し、これらに対する基本的な対応ができ、さらに基本的な救急処置ができるようになる。次に、脳神経外科専門医への基礎づけとして脳神経外科学および関連各科の臨床体験を重ねて基礎知識、技術を習得する。

II. 研修施設と研修指導責任者・指導医

1) 研修施設

医療法人社団誠馨会 新東京病院

脳神経外科研修 週間予定表

	時間	月	火	水	木	金	土
午前	8:30～ 12:00	病棟回診	手術	手術	カンファレンス	病棟回診	公休
					脳血管撮影		
午後	13:00～ 17:00	脳血管撮影	手術	手術	脳血管撮影	病棟回診	公休

※緊急な手術・処置・検査等で変更が生ずる場合もある。

III. 行動目標および評価項目

評価記載

A：到達目標に達した

B：目標に近い

C：目標に遠い

①1. 脳神経外科疾患の救急（外傷、血管障害等）に関して
以下のことが出来る。

自己評価

指導医評価

1) 迅速、且つ的確に診療ができる。

（病歴、現症の把握）

A B C A B C

2) 意識障害及びそれに起因する嘔吐、呼吸障害に対しての処置ができる。

A B C A B C

3) 入院の要否が決定できる。

A B C A B C

4) 必要な検査を短時間に手順良く指示、施行できる。

A B C A B C

5) 外来の場合には、帰宅時の注意及び今後の指示が的確にできる。

A B C A B C

指導医サイン

2. 頭蓋内圧亢進に対して以下の事ができる。

1) 臨床症状により頭蓋内圧亢進の程度が把握できる。

A B C A B C

2) 急性頭蓋内圧亢進に対して適切な処置ができる。

A B C A B C

3) 慢性頭蓋内圧亢進に対して注意と対策ができる。

A B C A B C

指導医サイン _____

3. 意識障害の鑑別診断と適切な処置ができる。

1) 原因の診断と程度のカテゴリが分類ができる。

A B C A B C

2) 必要な救急処置ができる。

A B C A B C

3) 診断に必要な検査を順序良く行う事ができる。

A B C A B C

指導医サイン _____

4. 緊急手術の必要性について述べる事ができ、その術前検査を適切に指示できる。

A B C A B C

指導医サイン _____

5. 神経放射線学に関して以下の事ができる。

1) 頭部外傷において頭部単純撮影の適応を述べる事ができ、その所見を読むことができる。

A B C A B C

2) CT検査（MRIを含み、単純、増強）の適応が決定できる。

A B C A B C

3) 外傷、血管障害の主要なCT所見が把握できて診断できる。

A B C A B C

4) 脳血管撮影の適応と虚血性脳血管障害や脳動脈瘤等の原疾患が診断できる。

A B C A B C

5) XeCTによる脳血流検査の適応とその所見が述べられる。

A B C A B C

指導医サイン _____

6. 外傷、血管障害による神経脱落症状、痙攣等に関して以下の事ができる。

1) 急性期に後遺症を考慮にいたした処置を行なう事ができる。

A B C A B C

2) 痙攣に対して、的確に診断、処置ができる。

A B C A B C

3) 神経症状が一過性か永続性かの予後を推測できる。

A B C A B C

4) リハビリテーション、退院社会復帰までの経過につき患者、家族に説明できる。

A B C A B C

指導医サイン _____

7. 開頭術、穿頭術、脳室腹腔シャント術等に参加し、脳神経外科の術前、術中、術後管理の基本を修得する。

A B C A B C

指導医サイン _____

8. 関連各科（耳鼻科、眼科、整形外科、形成外科）への紹介及び協力した治療計画に参画する。

A B C A B C

指導医サイン _____

②1. 紹介患者に対処できる。

1) 指導医の監督下に紹介患者についての対処ができる。

2) 指導による紹介に対して的確に対応できる。

(指導医に報告、指示を仰ぐ)

A B C A B C

3) 紹介入院になった患者について、入院時の報告を紹介医にする。

A B C A B C

4) 検査、手術等の報告を紹介医にできる。

A B C A B C

5) 退院時の報告、紹介を紹介医にできる。

A B C A B C

6) 電話紹介の救急患者に対処できる。

- | | | | | | | |
|----------------------------|---|---|---|---|---|---|
| a. 外来師長、医事への連絡 | A | B | C | A | B | C |
| b. 入院時に必要な検査の準備 | A | B | C | A | B | C |
| c. 入院病棟、ベッドの指示 | A | B | C | A | B | C |
| d. 緊急手術の要否の予測と手術への連絡 | A | B | C | A | B | C |
| e. 指導医への報告と緊急手術に必要な人員を確保する | A | B | C | A | B | C |

指導医サイン

2. 頭部外傷患者に対処できる。

- | | | | | | | |
|--------------------------------------|---|---|---|---|---|---|
| 1) 緊急手術の適応の決定 | A | B | C | A | B | C |
| 2) 患者、家族に緊急手術についての説明ができ、承諾をとることができる。 | A | B | C | A | B | C |
| 3) 緊急手術を指導医のもとに行う。 | A | B | C | A | B | C |
| 4) 術後の検査、処置、管理を指導医のもとに行う。 | A | B | C | A | B | C |

指導医サイン

3. 脳血管障害に対して以下のことができる。

- | | | | | | | |
|---------------------------------|---|---|---|---|---|---|
| 1) 緊急手術の適応の決定
(脳内血腫、脳動脈瘤破裂等) | A | B | C | A | B | C |
| 2) 急性期の保存的療法 | A | B | C | A | B | C |
| 3) 経過に応じて適切な検査と処置 | A | B | C | A | B | C |
| 4) 手術時期の判断及び手術予定日の決定 | A | B | C | A | B | C |
| 5) 患者および家族に治療方針と予後の説明 | A | B | C | A | B | C |
| 6) 脳室ドレナージの適応 | A | B | C | A | B | C |
| 7) 脳室ドレナージの実施 | A | B | C | A | B | C |
| 8) 脳室ドレナージの管理 | A | B | C | A | B | C |
| 9) 脳動静脈奇形の血管撮影の説明 | A | B | C | A | B | C |
| 10) 脳動静脈奇形の手術適応の説明 | A | B | C | A | B | C |

指導医サイン

4. 脳腫瘍に対して以下の事ができる。

- 1) 頭蓋内圧亢進症状の把握とその程度を考慮することができる。 A B C A B C
- 2) 頭蓋内圧亢進の程度に応じた対処ができる。
- a. 緊急に検査、手術を要するもの。 A B C A B C
- b. 強力な対頭蓋内圧亢進療法により手術まで数日の余裕があるもの。 A B C A B C
- c. 年齢、鑑別診断、他の身体的条件を考慮して十分に術前検査を施行しうるもの。 A B C A B C
- 3) 腫瘍のCT (MRIを含む) 特徴を述べ鑑別診断ができる。 A B C A B C
- 4) 血管撮影上の脳腫瘍の特徴を述べ、鑑別診断ができる。 A B C A B C
- 5) 患者および家族に、手術、予後に関して説明し手術の承諾をとることができる。 A B C A B C
- 6) 放射線科との連携
- 1) CT像、MRI像の主要な所見が指摘できる。 A B C A B C
- 2) 神経放射線学を一通りマスターし、セルジンガー法による血管撮影の実施とミエログラフィの主要所見を述べる事ができる。 A B C A B C
- 3) 放射線療法の適応と決定ができる。 A B C A B C
- 4) 化学療法との併用、または単独療法と照射部位、線量について概説できる。 A B C A B C

指導医サイン _____

- 7) 高血圧症、糖尿病、心疾患、血液疾患、悪性腫瘍転移、腎疾患等の合併症に関し、各専門家の相談を受けて指示することができる。

A B C A B C

指導医サイン _____

- 8) 視力、視野障害を判断する基本的な手技が行える。眼科的検査結果を適切に評価できる。

A B C A B C

指導医サイン _____

9) 聴力障害、平行機能障害に関して耳鼻科医の相談を受け結果を適切に評価できる。

A B C A B C

指導医サイン _____

10) 多発外傷に関しては、外科、整形外科、と対診し、優先治療、順位を考えながら脳神経外科的対処ができる。

A B C A B C

指導医サイン _____

11) 消化管出血等の合併症の迅速な判断と、外科への相談ができる。

A B C A B C

指導医サイン _____

12) 意識障害患者の栄養管理

- 1) 経静脈栄養の管理ができる。
- 2) 経管栄養の管理ができる。
- 3) 胃屢造設の管理ができる。

A B C A B C

A B C A B C

A B C A B C

指導医サイン _____

13) 頭蓋内圧と、急性期のリハビリを考えた患者体位、運動の指示ができる。

A B C A B C

指導医サイン _____

14) 穿頭術、脳室ドレナージ、脳室腹腔シャント、緊急手術が指導医の下にできる。

A B C A B C

指導医サイン _____

15) 脳神経外科顕微鏡手術の第一助手を務めることができる。

A B C A B C

指導医サイン _____

16) 学術活動（学会発表、論文記述）が適切にできる。

A B C A B C

指導医サイン _____